

# 中部方面混成団

## 記念行事盛大に開催

平成27年5月9日  
(入場者4500人)

かけはし



MACB  
QRコード  
編集・発刊

中部方面混成団  
本部広報室

Tel.077-523-0034



### 中部方面混成団創立八周年 大津駐屯地創設五十六周年

中部方面混成団及び大津駐屯地（団長兼ねて駐屯地司令 深田 尚則 一陸佐）は、県知事、大津市長、国会議員をはじめ、多数の来賓のご臨席のもと、混成団創立八周年、駐屯地創設五十六周年記念行事を盛大に開催した。

当日は、曇り空の中での行事となったが、大勢の来場者で賑わった。観閲式は、中部方面混成団副団長（佐藤一陸佐）を部隊指揮官として団隷下部隊が参列、観閲行進では、中部方面音楽隊を先頭に、第一〇九教育大隊に入隊した新隊員、第一〇教育大隊、第四陸曹教育隊、第四十七普通科連隊、第四十九普通科に加え、各地からの支援部隊の車両が来場者の前を行進し、大きな喝采を浴びた。式典後は、記念行事初となる中部方面音楽隊とラッパ隊とのコラボ演奏、大津駐屯地名物新隊員による自衛隊体操、迫力ある模擬戦闘が行われ、見学者を圧倒・魅了し、盛況のうちに、記念行事を終了した。



観閲官 深田 1 佐



観閲行進を行う観閲部隊指揮官佐藤 1 佐



新隊員全員による自衛隊体操



訓練展示



コラボ演奏

### 感謝状受賞者

#### 混成団長感謝状

混成団友の会  
監事 上原 文男様

四十九普通科後援会  
会長 塩田 雅章様

四曹教友の会  
理事 坂出 良彦様

一〇教大教友会  
特別会員 戸田 公様

一〇教大教友会  
会員 溝渕 洋二様

#### 駐屯地司令感謝状

大津自衛隊協力会  
理事 三上 弥富様

大津駐屯地業務隊OB会  
役員 橋本 清様

### ちよつと一服

▼本年四月一日に着任以来、数ヶ月が過ぎました。毎日が、新たな発見や新たな出会いとの連続で、まさに光陰矢のごとし、時間の経過をとっても早く感じています。そうした中で、この度、中部方面混成団の機関誌である「かけはし」への投稿の機会をいただきました。今後、紙面の一部を借りまして、忙中閑有りという趣旨から、「ちよつと一服」と題しまして、日頃の思いのままに、書き記したいと思っております。

▼仕事が煮詰まって忙しくなり、また窮地に陥るとイライラして、ついつい癩癩を起こしてしまうということは、誰もが多少かれ少なかれ経験されたことがあると思います。そうした後は、癩癩を起こされた方はもちろんですが、起こした方も後味が悪い思いが残ると思います。そんな思いをして苦しむなら、一層、癩癩を起こさない方がどれだけお互い幸せかというのは、考える余地もないことだと思えます。でもなかなか、癩癩を起こさないというのは、難しいことでもあると思います。

癩癩をひらがなで書くと「かんしゃく」です。前述に「かんしゃく」を起こすとお互いに苦い思いをし、それなりに苦しい気持ちになること記しました。そうです。苦が残るのです。苦をひらがなで書くと「く」です。「かんしゃく」を起こすと「く」が残る。それであれば、最初からこの「かんしゃく」から「く」を無くしてしまつてはどうでしょうか。残るのは、「かんしゃー」です。そうです、「感謝」なのです。人に對してイライラついて、癩癩を起こしそうな時、ちよつと考えてみて下さい。今までのその相手に何かしてもらつて感謝したことはありますか。また、もし癩癩を起こして、相手に腹が立つて仕方ない時に、自分を静めるために、同様に相手に對する感謝さがしを試みられたいかがでしょうか。そうすることで、もしかしらば、癩癩という苦しみから解放されるかもしれません。現に私はその努力を常に試みています。「感謝」

混成団長 深田尚則

第四十七普通科連隊

総合隊務視察受察



情報管理検査



状況報告



物品管理検査



隊員との懇談

第四十七普通科連隊（連隊長 齊藤一陸佐）は、六月八日から十二日までの間、海田市駐屯地及び善通寺駐屯地において中部方面混成団（団長 深田一陸佐）の実施する総合隊務視察を受察した。連隊・海田市駐屯地において、状況報告、勤務隊舎及び集約倉庫の実視引き続き連隊隊員との懇談が実施され、連隊の取り組み、問題点等を確認していただいた。

混成団長は、総評において一本視察を通じ、第四十七普通科連隊が、本職の意図を体し、常備自衛官及び即応予備自衛官が一体となつて任務を完遂できる連隊を育成していることを確認した。一と述べられた。

指導事項については速やかに是正改善し、精強第四十七普通科連隊の練成に邁進する所存である。

第1次連隊野営



LAM射撃

連隊は、六月二十一日から二十四日までの間、日本原演習場において第一次連隊野営訓練を実施した。本訓練には四九五名（常備自衛官一九一名、即応予備自衛官二九八名、支援部隊六名）が参加し、銃分隊戦闘射撃、M01式対戦車誘導射撃、一〇〇ミリ携帯対戦車弾射撃を行い、射撃練度向上を図った。二十三日には、徳島・鳥取・島根・兵庫・香川・愛媛県

隊内生活体験支援 貴重な経験！



10キロ行進

連隊は、第四中隊（中隊長 平川一尉）担任で五月二十七日、二十九日の間、海田市駐屯地が実施する隊内生活体験を支援した。

四社二団体七十名の生活体験参加者は、基本教練、救急法や担架搬送のほか、十キロ行進で、重さ約二十キロの荷物（最終行程のみ希望者）を背負って徒步行進などを体験した。

すべての訓練を終えた生活体験参加者の一人は「団体行動で時間を守る難しさや仲間と助け合う大切さを学ぶ良い経験となりました。」との感想を述べた。



企業主等研修



戦闘射撃

の即応予備自衛官雇用企業主等二十四名の射撃訓練研修を支援した。研修参加者からは「直ぐに射距離判定をして良的に命中させて素晴らしい。」という所見をいただいた。

# 第四十九普通科連隊



## 我ら四十九連隊

# 第一次連隊射撃野営(東富士)

連隊(連隊長 押川一陸佐)は、六月十四日から十七日までの間、東富士演習場において第一次連隊射撃野営を実施した。

本野営は、八ミリ迫撃砲の実弾射撃能力の向上を図ることを目的として、第二中隊及び第三中隊が実弾射撃を実施した。射撃日の十五日及び十六日は、両日ともに天候に恵まれ、第二中隊は状況下における戦闘射撃を、第三中隊は

基本射撃(夜間射撃を含む。)を実施。射撃間、自衛官及び即応予備自衛官が一丸となってこれまで積み重ねてきた練成の成果を存分に発揮し、所望の成果を収めた。

また、期間中直轄小隊の隊員(即自含む。)も一部野営に参加し、通信小隊は通信網の構成を、補給小隊は補給活動についてそれぞれ演練した。



射撃分隊



前進観測班



射撃指揮所



補給活動

# 70式地雷原爆破装置投射訓練



## 施設作業小隊、実爆に即自初参加

連隊は、六月二十五日、東富士演習場において、七〇式地雷原爆破装置の投射訓練を実施した。

本訓練は、七〇式地雷原爆破装置の訓練策及び実爆策の投射訓練を実施して、障害処理能力及び分隊長の実員指揮能力の向上を図ることを目的とし施設作業小隊が実施した。

爆破訓練は一連の状況下において敵第一線陣地の陣前障害処理に任ずる施設作業小隊の行動の中で実施した。今回、即応予備自衛官が初めて投射訓練に参加したが、見事投射を成功させた。

# 連隊小火器射撃競技会

## 応用射撃による競技会を実施

連隊は、四月十三日及び十四日の二日間、高山射場において連隊小火器射撃競技会を実施した。

本競技会は、小火器射撃能力の向上を図るとともに、部隊の団結強化及び隊員の士気高揚を図ることを目的として実施し、小銃の部(①激動後の射撃 ②防護マスク装着時の射撃 ③利き腕以外の射撃)、拳銃の部(不意現出複数目標への射撃)、機関銃の部(複数隠頭目標に対する射撃)の三部門で競技、中隊対抗方式(平均命中弾数)で二百五十一名の隊員が競技に臨んだ。競技間、両日ともに終日季節外れの冷雨と強風に見舞われ厳しい環境下での競技となったが、隊員は普通科精神とこれまで積み重ねてきた練成の成果を最大限に発揮し一発必中の信念で競技に臨んだ。閉会式では、部隊の部として総合優勝の第三中隊、小銃及び拳銃の部優勝の第四中隊、機関銃の部優勝の第三中隊が表彰されたほか、個人として十二名の隊員が連隊長表彰を受賞した。

連隊は、六月十四日から十七日までの間、東富士演習場において第一次連隊射撃野営を実施した。



優勝 第3中隊



防護マスク装着時の小銃射撃



拳銃射撃



機関銃射撃



施設作業小隊の隊員



投射準備

# 第四陸曹教育隊



### 上中総合

六月十六日、上級陸曹課程の学生は部隊の原動力として、六月二十四日及び二十五日、候補生たちは一人前の陸曹として、六月二十六日生徒達は一人前の自衛官として、皆元気に卒業を迎え第四陸曹教育隊から巣立って行った。



### 共中障害走

四月から始まった各課程教育も卒業に向け教育真つ盛り。上級陸曹課程は、初となる総合訓練での六十km行軍に向け毎週行進訓練を行い、陸曹候補生課程（生徒を含む。）及び初級陸曹特技課程の学生は戦闘訓練・各種器材操作・体力練成・課目試験等々毎日知識・技能の修得に努めた。

各中隊教育真つ盛り  
そして卒業



### 懇親会



### 歓談する隊本部の面々

隊は、六月二十日（土）、第四陸曹教育隊創隊六十一周年記念行事を実施した。本年度は、隊員及び隊員家族全員が楽しめるよう、琵琶湖汽船「ビアンカ」船内で行った。当日は、「晴天」とまではいかないあいにくの曇り空であったが、隊員・家族・四曹教友の会会員様をあわせ、総勢百七十四名の参加を頂いた。零時三十分ビアンカは静かに大津港を出航し、約二時間半のクルージングが始まり、この間記念行事及び祝賀会を実施した。

記念行事は、隊長挨拶の後、来賓を代表して四曹教友の会長長水元様よりご祝辞を頂き、共通教育中隊長の乾杯の発声により祝賀会が開始された。祝賀会では、食べ放題飲み放題に加えビンゴ大会を実施して盛況なうちに終了した。今回初めて参加された方々からは「来年もぜひ参加したい」等嬉しいお言葉を頂いた。

なお記念行事の開始に先立ち船内において四曹教友の会総会が実施され、平成二十七年新役員が選出された。

## 第四陸曹教育隊創隊六十一周年記念行事



### 渡河ボート体験乗船



### 戦車試乗

駐屯地創隊記念行事  
五月九日（土）に駐屯地創隊記念が行われた。

隊は渡河ボート体験乗船及び戦車試乗を担当し、当日は天気にも恵まれ、開始二十分で両方の整理券が無くなる程の人気ぶりであった。

# 第一〇九教育大隊

## 第八期一般陸曹候補生 平成二十七年自衛官候補生 修了式

第一〇九教育大隊（大隊長 佐伯二陸佐）は、六月二十八日（日）第八期一般陸曹候補生及び平成二十七年自衛官候補生（女子）の修了式を挙行了。四〇七名の新入隊員が来賓や多数の家族の方々から自衛官らしく逞しく成長した姿を披露した。



精悍な姿に成長



大隊長からの式辞



国歌斉唱



各優秀賞の受賞者

### 同期との別れを惜しみつつ、それぞれの後期部隊へ

七月一日（水）大津駐屯地で過ごした三ヶ月の思い出と同期の絆に後ろ髪をひかれつつも、駐屯地の大勢の方々に見送られて、北は北海道から南は九州までと文字通り全国の部隊へ元気な姿で異動した。



大津駐屯地の方々に見送られ



同期は一生忘れません



それぞれの後期部隊へ

## 一般陸曹候補生 三ヶ月の軌跡

### 入隊時

やや緊張気味で着隊した新隊員達は、慣れない集団生活に戸惑う隊員もいたが、ほとんどの隊員がすぐに仲間と打ち解ける事ができた。

### 四月（環境順応期）

入隊式が終わり、いよいよ本格的な訓練が始まる。同期と協力し、区隊長、班長の指導の下、訓練を乗り越えていく。

### 五月（練成期）

大津駐屯地創立記念行事では、観閲行進や自衛隊体操を披露した。あいば野演習場での集中野営でも25kmの行進訓練を元気に完歩した。

### 六月（完成期）

任地発表を数日後に控え、訓練の集大成となる戦闘訓練練度判定に挑み、勇猛果敢な突撃の末に見事任務を完了した。



戦闘訓練練度判定



観閲行進



武器授与式



まずは敬礼から



戦闘訓練練度判定



25Km行進



比叡山延暦寺史跡研修



美味しい食事に感謝

# 第一〇教育大隊



## 平成27年度一般陸曹候補生課程前期修了式



申告 奥田 2 士



家族とのひと時



第15普通科連隊との合同修了式

大隊（大隊長 増田二陸佐）は、六月二十八日に第十五普通科連隊自衛官候補生との合同修了式を実施した。

約三ヶ月間の教育を修了した一般陸曹候補生二七八名は、自衛官としてたくましく成長した。その表情は自信に満ち溢れ御家族の方々も嬉しそうな様子であった。

## 一般曹候補生 3ヶ月の軌跡

### 入隊時

緊張の面持ちで着隊。慣れない団体生活に戸惑いながらも、仲間同士助け合いながら自衛官としての一步を歩みだした。

### 四月（環境順応期）

団体生活にも徐々に慣れ、いよいよ本格的に訓練が始まる。毎日が新鮮かつ刺激のある訓練で、あつという間に四月が過ぎていく。

### 五月（練成期）

訓練も厳しさを増し、班長たちの指導にも力が入る。各種訓練練度判定に合格できるよう日々の努力が重要となる。体力的にも精神的にも強くたくましくなる。

### 六月（完成期）

前期教育の集大成。戦闘訓練練度判定、香色山登山走競技会と過酷な訓練の日々が続く。今までの練成の成果を最大限発揮し、自衛官としての自信を身につける。



戦闘訓練練度判定



基本教練練度判定



掩体構築



団体生活のはじまり



香色山登山走競技会



25km徒步行進



ガス体験



武器授与式



旅立ちのとき



後期部隊へ出発！



涙の別れ



お互い頑張ろう！

七月一日、雨がそぼ降る中、善通寺駐屯地から後期教育部隊へと一般陸曹候補生達は旅立った。班長や同期との別れはとも寂しく、涙を流す隊員も見受けられた。改めてこの三ヶ月間で培った仲間との絆の深さを知ったようである。

それぞれ違った職種や任地に配属されるが、第一〇教育大隊での思い出は、一生忘れることのない宝になるであろう。そしてその思い出を胸に新たな地で、また新たな仲間たちと共に一人前の自衛官になるべく訓練に邁進してもらいたい。

### それぞれの部隊へ